

授業科目名	実務家教員養成演習	担当	松本朱実、他
配当年次	—	配当学期	—
必修・選択の別	必修	授業の方法	講義、演習等

<講義概要と目的>

『実務家教員』は、民間企業や官公庁、各種団体等で培ってきた、知識や経験、スキル、ノウハウをそのまま指導するのではなく、これまでの理論と整合をとり、体系的に整理し、指導・教授することが求められる。実務家教員が指導する対象者は、専門スキルを身に着けたい学生やリカレント教育を受ける学び直しをする社会人となる。

実務家教員として活躍するためには、様々な能力を身につける必要があり、大きな壁がある。例えば、多くの経験豊富な実務家が、実務家教員になるにあたって必要な論文を書いたことがない、あるいは講師経験が不足している現状がある。そこで、民間企業や官公庁などに勤める実務家を対象として、教員になるための教育研究指導能力獲得を目的とする。

<到達目標>

実務家教員に必要な基礎的な素養と知識を身につけ、自らの実務経験に基づく教員個人調書、シラバス、教案を作成できるようにする。また、シラバスに沿った実践的な講義を行う力を備える。

<授業の進め方と方法>

講義及び演習に加え、「研究会」は少人数制のグループに分け、各グループに担当教員を配置したうえで、ワークとディスカッションを行う。また、「講演」では実際に高等教育の現場で活躍する実務家をゲスト講師として招聘する。

<講義計画>

ガイダンス：受講にあたって

第1、2講：実務家教員とは何か、実践と理論の融合Ⅰ

第3、4講：高等教育論、高等教育政策論

第5、6講：教員調書と実績Ⅰ、Ⅱ

第7、8講：シラバス作成の基礎Ⅰ、Ⅱ

第9、10講：教授法の基礎Ⅰ、Ⅱ

第11、12講：【研究会①】教員個人調書作成演習

※自身の実績を記述し、少人数制のグループワークと双方向フィードバックを実施

第13、14講：ファシリテーション論、ファシリテーション演習

※数人に分かれグループディスカッションを実施

第15、16講：教材研究の基礎、教材作成演習

第17、18講：学習評価論Ⅰ、Ⅱ

第19、20講：【研究会②】シラバス作成演習

※自身の授業計画を策定し少人数制のグループワークと双方向フィードバックを実施

第21、22講：論文執筆の基礎Ⅰ、Ⅱ

第23、24講：【講演①】実務家教員のキャリアパス①

※※実務家教員による講演、グループディスカッション

<p>第 25、26 講：成人教育論、実践と理論の融合Ⅱ</p> <p>第 27、28 講：【研究会③】論文執筆演習</p> <p>※論文の素案作成と少人数制のグループワークと双方向フィードバックを実施</p> <p>第 29、30 講：【講演②】実務家教員のキャリアパス②、オンライン教授法</p> <p>第 31、32 講：実践講義法Ⅰ、Ⅱ</p> <p>第 33、34 講：【研究会④】教案作成演習</p> <p>※論文の素案作成と少人数制のグループディスカッションと双方向フィードバックを実施</p> <p>第 35、36 講：教育指導法、研究倫理・コンプライアンス</p> <p>第 37、38 講：模擬授業Ⅰ、Ⅱ</p> <p>第 39、40 講：模擬授業Ⅲ、Ⅳ</p> <p>※研究生による模擬授業発表、グループ内での双方向評価を実施</p>
<p><講義外の課題></p>
<p>研究会準備のための教員個人調書、シラバス、論文素案、教案作成を要する。また、第 37～40 講の模擬授業では、自身が作成したシラバスに基づき指定された箇所の模擬授業を行うため、事前の授業準備を行うこと。また、各回修了後にはミニットペーパーの提出を求める。</p>
<p><教科書・参考書></p>
<p>・実務家教員 COE プロジェクト編、『実務家教員への招待 人生 100 年時代の新しい「知」の創造』， 学校法人先端教育機構，2020 年</p> <p>ほか、各回のテーマに応じ、適宜紹介していく。</p>
<p><修了要件></p>
<p>出席率（60%）、模擬授業の合格。</p>
<p><その他の重要事項></p>
<p>質問等は随時 Teams 上に設定されている「質問受付フォーム」より、受け付ける。</p>